

蔵原 伸二郎

『狐』

朗読 田島 裕人

収録作品

めぎつね

黄昏いろのきつね

おぎつね

きつね

老いたきつね

野狐

## めぎつね

野狐やこの背中せなかに

雪ゆきがふると

狐きつねは青あおいかげになるのだ

吹雪ふぶきの夜よるを

山やまから一直線いちちよくせんに

走はしつてくる その影かげ

凍こおる村々むらむらの垣根かきねをめぐり

みかん色いろした人々ひとびとの夢ゆめのまわりを廻まわつて

青あおいかげは いつの間まにか

鶏とり小屋ごやの前まえに坐すわっている

二月にがつの夜よあけ前まえ

とき色いろにひかる雪ゆきあかりの中なかを

山やまに帰かえつてゆく雌狐めぎつね

狐きつねは みごもっている

黄昏たそがれいろのきつね

山やまからおりて来たき狐きつねが

村むらの土橋つちはしのあたりまでくると

その辺あたりの空気くうきが狐きつねいろになった

残照ざんしやうのうすらあかりの中で

狐きつねがたそがれいろになったのだ

葦あしがさやさやと鳴なった

風かぜは村むらの方角ほうかくから吹ふいている

狐きつねは一本いっぽんのほそい

あるかないかの影かげになつて

村むらの方ほうへ走はしった

かくて

狐きつねはまた一羽いちわしろ白いにわとり鶏わとりを襲おそった

## おぎつね

たそがれ  
黄昏どきの冬山は静かだ

いっぴき  
一匹の雄狐が

かれき  
枯木の三叉にのぼっている

かわ  
はがれた皮だけのように

うすつぺらになつている

きつね  
狐は鉄のにおいをぷんぷんさして

やま  
山すそから登つてくる見えない狩人の姿を

み  
ちやんと見ていた

あしおと  
そいつの足音がいやらしい欲望の音であるのもしつっているのだ

おぎつね  
雄狐はゆつくり木からおりた

げっこう  
そして 月光いろの雌狐が待っている

よじげん  
四次元の寂寥の中へ消えていった

## きつね

狐きつねは知しっている

この日ひ当たりのいい枯かれ野のに

自分じぶんが一人ひとりしかないのを

それ故ゆえに自分じぶんが野原のの一部分いちぶぶんであり

全体ぜんたいであるのを

風かぜになることも枯草かれくさになることも

そうしてひとすじの光ひかりにさえなることも

狐きつねいろした枯野かれのの中なかで

まるで あるかないかの

影かげのような存在そんざいであることも知しっている

まるで風かぜのように走はしることも 光ひかりよりも早はやく走はしることもしっている

それ故ゆえに じぶんの姿すがたは誰だれにも見みえないのだと思おもっている

見みえないものが 考かんえながら走はしっている

考かんえだけが走はしっている

いつのまにか枯野かれのに昼ひるの月つきがで出ていた

## 老いたきつね

冬日ふゆびがてつている

いちめん

すすきの枯野かれのに冬日ふゆびがてつている

四五日前しごにちまえから

一匹いっぴきの狐きつねがそこにきてねむっている

狐きつねは枯かれすすきと光ひかりと風かぜが

自分じぶんの存在そんざいをかくしてくれるのを知しっている

狐きつねは光ひかりになる 影かげになる そして

何なん万年まんねんも前まえからそこに在あったような

一つひとの石いしになるつもりなのだ

おしよせる潮騒しおさいのような野分のわけの中なかで

きつねは ねむる

きつねは ねむりながら

光ひかりになり、影かげになり、石いしになり雲くもになる夢ゆめをみている

狐きつねはもう食欲しょくよくがないので

今いまではこの夢ゆめばかり見みているのだ

夢ゆめはしだいにふくらんでしまつて

無限大むげんだいにひろがつてしまつて

宇宙うちゅうそのものになつた

すなわち

狐きつねはもうどこにも存在そんざいしないのだ

## 野狐

さびれた白い村道を歩きながら

旅人はつぶやいた

「生きながら有限から抜け出そうなんて、

それはとうてい不可能なことだ」

すると、旅人の頭の中の

一匹の狐が答えた

「それはあなたが消滅して私になれば、

わけもないことです」

そこで旅人は狐になった

道ばたの紅いスカンポの根をかじり

谷川におりて青いカジカを追いまわした

今はただ

一匹のやせ狐が

どこへゆくかもわからない

黄昏の村道を歩いている

〈完〉

## Podcast のラジオ 好評配信中！



視聴・購読はこちらから  
<https://gekidannono.com>

ご意見・ご感想はこちらへ  
[radio@gekidannono.com](mailto:radio@gekidannono.com)

劇団ののでは、名作文学を声に出して演技し、収録した音声を Web 上で配信しています。複数名で読むラジオドラマタイプ、単独で読む朗読タイプなど、様々な形で朗読をしています。

みなさんも一緒に朗読を体験して楽しんでいただけるよう、本文に出てくる言葉や物語の解説も、公式サイト上で公開しています。

いつか国語の教科書で読んだ気がする、芥川龍之介・宮沢賢治・夢野久作などのあの作品やこの作品、ぜひ、役者の声でお楽しみください。

## 劇団ののと読む名作文学 蔵原伸二郎 『狐』 Podcast 版

発行日 令和 3 年 5 月 29 日

著 者 蔵原伸二郎

編 集 劇団のの

発 行 劇団のの

[https://gekidannono.com/  
radio@gekidannono.com](https://gekidannono.com/radio@gekidannono.com)

※本文は、青空文庫様掲載の原文を加工したものです。

ゴシック体のルビは、原文に振られていたものです。

※促音（っ）や拗音（ゃゅょ）が大きいのは、原文どおりです。

底 本 『近代浪漫派文庫 29 大木惇夫 蔵原伸二郎』新学社

初 出 1955（昭和 30）～1958（昭和 33）年

図書カード URL

<https://www.aozora.gr.jp/cards/001821/card56983.html>

